

一人の新しい人は、人を創造した神の定められた御旨を成就する

(木曜日—午前第二の部)

メッセージ 2

キリストは人の子、第二の人、最後のアダムであって、
人を創造した神の意図を成就する

聖書：創 1:26. マタイ 16:13. 26:64. 24:30. I コリント 15:45, 47. ルカ 1:35

I. キリストは人の子、第二の人、最後のアダムです：

A. キリストは人の子です—ダニエル 7:13. マタイ 16:13. ヨハネ 1:51：

1. 人がいなければ、神の定められた御旨は地上で遂行されることができません。神の定められた御旨を達成するために、キリストは人と成る必要がありました。
2. 肉体と成ることにおいて、キリストは人の子です—マタイ 16:13：
 - a. 主イエスは聖霊から胎に入ったので、神の子です—1:18, 20. ルカ 1:35.
 - b. 彼はまた、人の処女の胎に入り、人の処女から生まれたので、人の子です—マタイ 1:23.
 - c. 神の面において、彼は神の子です。人の面において、彼は人の子です。
3. 主イエスは、復活の時以来、天で神の右におられる人の子です（使徒 7:56）。また彼は、力と大いなる栄光をもって、天の雲に乗って再来する時も人の子です（マタイ 26:64. 24:30）。

B. 肉体と成ることにおいて、キリストは第二の人です—I コリント 15:47：

1. 全宇宙には、ただ二人の人しかいません。すなわち、最初の人アダムと、第二の人キリストです。
2. 47 節の「天から出て」は、第二の人キリストの神聖な起源と天的な性質を示しています。
3. アダムは最初の人として、旧創造のかしらであり、創造の中の旧創造を代表しています。キリストは第二の人として、新創造のかしらであり、復活の中の新創造を代表しています—47 節：
 - a. わたしたち信者は、誕生によって最初の人の中に含まれていました。そして、再生によって第二の人の一部になりました—創 1:26. ヨハネ 3:3, 5-6.
 - b. わたしたちが最初の人の一部であることについて言えば、わたしたちの起源は地であり、わたしたちの性質は地的です。わたしたちが第二の人の一部であることについて言えば、わたしたちの起源は神であり、わたしたちの性質は天的です—I コリント 15:47.

C. キリストは最後のアダムです—45 節後半：

1. I コリント第 15 章 45 節は、二つの創造を暗示しています。すなわち、生きた魂である人がその中心となっている旧創造と、命を与える霊がその中心となっている、復活の中の新創造です。
2. キリストが最後のアダムであることは、旧創造が終わらせられ終結させられたことを暗示しています—45 節後半. II コリント 5:17：

- a. 旧創造は、一人の人、すなわち、最後のアダムをもって終わります。
- b. 旧創造を終わらせたこの人は、復活の中で命を与える霊と成りました——Ⅰコリント 15:45 後半。

3. 肉体と成ることを通して、キリストは最後のアダムと成って、十字架上で死に、旧創造を終わらせました。また復活を通して、最後のアダムである彼は、命を与える霊と成って、新創造を発芽させました——ガラテヤ 6:15。

Ⅱ. キリストの肉体と成ることと神・人の生活は、人を創造した神の意図を成就しました——創 1:26-27. ヨハネ 1:1, 14. ルカ 1:31-32, 35. 2:40, 52 :

- A. キリストの肉体と成ることは、人を神のかたちに、また神の姿にしたがって創造した神の定められた御旨と、密接な関係があります。神の定められた御旨とは、人が彼を命として受け入れて、彼の神聖な属性を表現するということです——創 1:26, 2:9. 使徒 3:14 前半. エペソ 4:24。
- B. 人・救い主は、人性の美德を伴う人の本質から生まれました。それは、これらの美德を引き上げて、神の属性にふさわしいものとならせて、神を表現するという水準にまでもたすためです——ルカ 1:35 :
 - 1. キリストは、神聖な属性を伴う神聖な本質から胎に入り、神聖な属性が彼の人性の美德の内容また実際となっていた方として、空っぽな人性の美德を満たします——マタイ 1:18, 20。
 - 2. 神聖な属性は、人性の美德を満たし、強め、豊かにし、聖別します。その目的は、人性の美德において神を表現することです。
- C. キリストは彼の肉体と成ることを通して、無限の神を有限な人の中へともたらしめました——ルカ 1:35. ヨハネ 1:1, 14. コロサイ 2:9。
- D. キリストは、神全体また完全な人であって、神聖な性質と人の性質を区別して所有しています——レビ 2:4-5。
- E. キリストは、神・人、すなわち、神性と人性のミングリングである人です——ルカ 1:35. ピリピ 2:5-8 :
 - 1. わたしたちは彼の中に、神聖な属性すべてと人性の美德すべてを見ます :
 - a. 主イエスは、神聖な本質を伴う聖霊から胎に入ったので、神聖な属性を伴う神聖な性質を所有しています——マタイ 1:18, 20。
 - b. 主イエスは、人の本質を伴う人の処女から生まれたので、人性の美德を伴う人の性質を所有しています——ルカ 1:26-35。
 - 2. キリストの人の生活は、神を生きて人性の美德において神聖な属性を表現した、一人の人の生活でした——7:11-17. 10:25-37. 19:1-10。
- F. キリストは彼のかぐわしい美德を通して、彼の人性において、満ちあふれる神の豊富な属性を表現しました——ルカ 7:36-50. ヘブル 2:17 :
 - 1. キリストは、愛、光、聖、義という神聖な属性を表現しました——エペソ 3:19. ヨハネ 8:12. 使徒 3:14 前半。
 - 2. キリストのかぐわしい美德には、彼のあわれみ、同情、柔和、へりくだり、従順、忠信、真実が含まれています——ヘブル 2:17. マタイ 9:36. 11:29. Ⅱコリント 10:1. ピリピ 2:8. ローマ 5:19. Ⅱコリント 11:10。

G. 最初の神・人であるキリストは、人として生活しました。しかし、人の命によって生活して、人の美德において人を表現したのではありません——ヨハネ 5:19 :

1. 彼は、自分自身の思い、意志、感情によって生きたのではなく、神の思い、意志、感情によって、真の人の生活をしました。
2. 主の神・人の生活において、主の思い、意志、感情は、神の命と、神の思い、意志、感情とを内容とする器官でした。

H. 主イエスは彼の神・人の生活において、決して自分から何もせず (19 節)、 自分自身のわざを行わず (4:34, 17:4)、自分自身の言葉を語らず (14:10, 24)、自分自身の意志によって何も行わず (5:30)、自分自身の栄光を求めませんでした (7:18)。

I. 主イエスは彼の生活において、宇宙の中で最も偉大な事を達成しました。それは、彼が彼の人性において神を表現したということです——ヘブル 1:3. ヨハネ 14:9-10。

III. キリストの神・人の生活は、彼を原型へと構成しました。それによって彼は、今やわたしたちの中で複製され、わたしたちの中で再び生きることができます——ガラテヤ 2:20. ピリピ 1:20-21 前半 :

A. ルカによる福音書は、最初の神・人についての、神・人の生活の歴史を記載しています。今やこの歴史は、わたしたちの存在の中へと書き込まれる必要があります——Ⅱコリント 3:3。

B. 主イエスはわたしたちを救うとき、神聖な属性で満たされた人性の美德を持つ方として、わたしたちの中へと入って来ます——ルカ 2:10-11, 25-32. 19:9-10 :

1. 彼は命を与える霊として、わたしたちの中へと入って来て、神をわたしたちの存在の中へともたらし、わたしたちの美德を神の属性で満たします——Ⅰコリント 15:45 後半. 6:17。
2. そのような命は、わたしたちを内側から救い、わたしたちの人性の美德を引き上げて、わたしたちを聖別し、造り変えます——ローマ 5:10. 12:2。

C. わたしたちの中に生きているキリストは依然として、神聖な属性によって強められ豊かにされた人性の美德を所有している方です——ガラテヤ 2:20 :

1. わたしたちの中へと分与されつつあるキリストは、神聖な属性を伴う神聖な性質と、人性の美德を伴う人の性質とから構成されています——4:19。
2. キリストは今や、彼が地上で生きたような生活を、信者たちの中で生きることを求めています。彼は依然としてわたしたちの中で、神聖な属性と人性の美德とから構成されている生活を生きています——ヨハネ 14:19 後半. Ⅱコリント 10:1, 11:10。

D. もしわたしたちが最初の神・人の複製となって、神・人であるキリストを生きようとするなら、わたしたちの霊の中で霊なるキリストから生まれなければならない、またわたしたちの魂の中で霊なるキリストによって造り変えられなければならない——ヨハネ 3:3, 6. Ⅱコリント 3:18。

E. わたしたちが主を愛し、彼を追い求め、彼と交わるとき、わたしたちは自然に、人には形容しがたい状況の中で生きます :

1. わたしたちは、環境にしたがって生活するのではなく、わたしたちの内側の主の感動と導きにしたがって生活します——ピリピ 2:12-13. 4:11-13。

2. わたしたちは主に対して開き、彼を愛し、彼と結合されて一になることを願うとき、彼によって満たされ、所有されて、神性の栄光と人性の美德とを生かし出します—— I コリント 2:9. 6:17. ピリピ 4:4-9。

務めの書物からの抜粋：

神のかたちと神聖な属性

わたしたちは今、神のかたちが何であるかをさらに進んで考えましょう。新約は、神のかたちがキリストであることを告げています。しかし、それでもわたしたちは、どのようにして神のかたちを描写すべきであるかを問う必要があります。

聖書は、神が愛であること、また神が光であることをわたしたちに告げます（I ヨハネ 4:8. 1:5）。愛は神の本質の性質であり、光は神の表現の性質です。聖書はまた、神が義であり聖いことを啓示します。神に関して用いられた「義である」という形容詞は、神の道のことを言っています。神が物事を行なわれる道は常に義であります。彼は決して何事も不義な方法で行ないません。「聖い」という形容詞は、神の内側の性質を言っています。神は、彼の行ないにおいて義であり、彼の性質において聖いです。ですから、神は愛と光であり、また神は義であり聖いです。これは神のかたちの描写です。

人のかたちを描写するとき、彼の背丈、体重、髪の色について語ることは正確ではないでしょう。人のかたちを描写しようとするなら、彼がどのようなパーソンであるかを言う必要があります。これが意味する事は、あなたがパーソンとしての彼の属性、すなわち、彼の個性や気質の特徴を描写する必要があるということです。同じように、神のかたちを描写しようとするなら、神の属性を描写する必要があります。

神のかたちは、これら四つの言葉、すなわち、「愛」、「光」、「義」、「聖」によって描かれます。これらは神の属性です。ですから、「神聖な属性」という用語を用いるとき、神の愛、光、義、聖を指しているのです。わたしたちの神は愛と光であり、またわたしたちの神は義と聖です。これは神の姿の描写ではありません。それは神の存在そのものの描写です。神は愛です。すなわち、愛は彼の存在です。神は光です。すなわち、光は彼の存在です。さらにまた、神の存在は、彼の行為において義であり、彼の性質において聖です。これが、わたしたちの神のかたち、描写です。この描写の四つの主要な特徴が、神の属性です。

人は神聖な属性を入れる度量をもって創造された

人は神のかたちに造られました。ですから、神によって創造された人は、愛、光、そして義と聖である度量を持っています。わたしたちは墮落していますが、依然としてわたしたちは、わたしたちの墮落した状態において、愛、光、そして神のように義であり聖である度量を持っています。神が人をご自身のかたちに創造した意味は、神が人を、彼の愛、光、義、聖を持つ度量をもって創造したということです。人の愛、光、義、聖は、わたしたちが人性の美德と呼ぶものです。これらの美德は神によって創造されました。

人が神の愛、光、義、聖を内容とする度量を持つようにと、神は人をご自身のかたちに創造されました。人性の美德が神によって創造されたのは、神の属性を内容とするためです。人の愛、光、義、聖は、神聖な愛、光、義、聖を内容とするために造られた度量です。

どこの人々も、他の人を憎むことはわたしたちの良心に反することに同意します。さら

にまた、偽り、盗み、暗やみで事を行なうことも、わたしたちの良心に反します。救われていない人でさえ、レストランや店で誤って自分に与えられた余分のつり銭を持っていることは不義であるという感覚を持つでしょう。

ここの要点は、人は神によって造られて、愛と光を持っており、義しく歩み、聖くあるということです。人がこれらの美德を持っているのは、神のかたちに、すなわち神の愛、光、義、聖のかたちに創造されたからです。神によって創造された人性の美德は、神の属性を内容とする度量です。神がこのように人を創造された意図は、人が命の木としての神を受け入れ、自分の命また内容とするということです。

アダムは神・人となることに失敗する

もしアダムが命の木から食べ、それによって神を命として内側に取り入れていたなら、彼は神で満たされ、彼の人性の美德は神の属性で満たされていたでしょう。そうであれば、人の美德は神の属性を表現したことでしょう。もしアダムがこうしたなら、必ず神・人となったことでしょう。神・人がベツレヘムで生まれるのを何千年も待つ必要はなかったことでしょう。もしアダムがエデンの園で命の木にあずかっていたなら、彼は神がご自身のかたちに、ご自身の姿にしたがって造った人となっただけでなく、命としての神で満たされ、人性の美德を満たす神聖な属性で満たされた人となっていたことでしょう。もしアダムがそのような人、すなわち神・人となっていたなら、神を生きる人となっていたことでしょう。

わたしたちが知っているように、アダムは神の定められた御旨を成就することに失敗しました。そして彼は神の設計を台無しにしました。神は彼の設計にしたがってアダムを造りました。しかし、アダムは命の木ではなく、善悪知識の木から食べたために、神の設計を台無しにしました。神によって造られた人性は駄目にされ、そしてある意味において失われました。しかしながら、……人・救い主の肉体と成ることは、人を創造した神の定められた御旨を成就しました。(ルカによる福音書ライフスタディ、メッセージ 56)

人を創造した神の意図

神は、人が神と一になるようにと設計しました。神はこのように人を設計したので、神は人を神のかたちに、神の姿にしたがって創造しました。「かたち」は内側の存在を指しており、「姿」は外側の現れを指しています。実は、神が人をご自身のかたちに創造したのは、人が神の複製になるという意図をもってでした。さらにまた、人は神の複製となるために、神が何であるかを内容とする度量を持たなければなりません。ですから、人は神の複製となるよう神のかたちに造られ、また神の表現となるよう神の姿にしたがって造られたのです。

人を創造した神の定められた御旨は、人が神の複製となって、神を表現するというものでした。この定められた御旨が遂行されるために、人は神を受け入れ、命の木としての神を内容とする必要があります。しかしながら、神によって創造された人であるアダムは、神の定められた御旨において失敗し、神の設計を駄目にしました。何千年もの後、人・救い主がやって来て、人を創造した神の定められた御旨を成就しました。

第二の人

キリストの肉体と成ることを通して、神は御子において人と成られました。これは何という偉大な事柄でしょう！ 神は、定められた御旨をもって、神の設計にしたがって人を創造しましたが、人は神の定められた御旨において神に対して失敗し、神の設計を駄目にしました。別の人を創造するのではなく、神ご自身がやって来て、第二の人と成りました（I コリント 15:47）。神がやって来て第二の人と成ったのは、御父においてではなく、その霊においてでもなく、御子においてでした。

肉体と成ることについて語る新約の方法は、神である言が肉体と成り（ヨハネ 1:1, 14）、神が肉体において現された（I テモテ 3:16）とすることです。第一の人が神の定められた御旨において神に対して失敗し、彼の設計を駄目にしたので、神ご自身がやって来て、第二の人と成りました。第二の人のゆえに、ハレルヤ！

聖霊から胎に入り、人の処女から生まれる

第二の人としての人・救い主は、造られたものではありません。そうではなく、彼は聖霊から胎に入り、人の処女から生まれました。彼は聖霊から胎に入り、神の本質を持ちました。また彼は人の処女から生まれて、人の本質を持ちました。ですから、この人は二つの本質から成る構成、すなわち、神聖な本質と人の本質とから成る構成でした。ですから、彼は神と人とのミングリングでした。このすばらしい方は、二つの本質から成る構成、すなわち、神と人とのミングリングであったので、彼は神・人でした。

神聖な命で満たされた人の生活をする

神・人に関する重要な事柄は、彼がその内容としての神聖な命で満たされた人の生活をしたということです。ある人たちが考えるかもしれないこととは反対に、ルカによる福音書は単なる物語の書ではありません。この福音書は、その内容としての神聖な命で満たされた人の生活をした、神・人の啓示です。人・救い主はそのような生活をした方として、神聖な性質と、神聖な属性、すなわち、神聖な愛、光、義、聖を持っていました。神聖な性質とその属性は、人・救い主の人の性質とすべての人性の美徳の中で表現されました。

神・人の愛

人・救い主の神聖な性質と神聖な属性は、彼の人の性質と人性の美徳の中で表現されたので、彼が地上で生きていたとき、神が人を愛していたのか、それとも人が愛していたのかを言うのは困難です。人・救い主の生涯においてわたしたちが見るのは、神・人の愛である愛、すなわち、神聖な命で満たされた人の生活をした方の愛です。主はこのように生きたので、彼の愛は、神聖な属性の愛で満たされた人性の美徳の愛でした。

ルカによる福音書に記録されたいくつかの事例は、人・救い主の愛が、神聖な愛の属性が人性の愛の美徳の中で表現されている愛であったという事実を例証しています。わたしたちはこの愛を、良きサマリア人の事例（ルカ 10:25-37）、パリサイ人シモンの家での罪深い女の事例（7:36-50）、主イエスに覚えていただくよう求めた十字架上の強盗の事例（23:39-43）に見ます。いずれの事例でも、主イエスは真の人性の愛を活用しました。しかしながら、彼の愛は単なる人性の愛ではありませんでした。それは、神聖な愛で満たさ

れ、また神聖な愛によって強められ、引き上げられ、豊かにされた人性の愛でした。

わたしたちはルカによる福音書を読むとき、人・救い主には、神聖な愛によって満たされ、強められ、引き上げられ、豊かにされた人性の愛があることを、見ないかもしれませんが、新約聖書を読む人たちは、主イエスが人を愛しておられることを容易に認識することができます。子供たちは、「イエスがわたしを愛されることを、わたしは知っています」と歌うことを教えられてさえいます。しかし、イエスはどのような愛を持っておられるのでしょうか？ 彼の愛は、人性の愛でしょうか、それとも神聖な愛でしょうか？ 彼の愛は、単なる人性の愛でもなく、単なる神聖な愛でもありません。彼の愛は、神聖な愛によって、また神聖な愛をもって、満たされ、強められ、引き上げられ、豊かにされた人性の愛です。このすばらしい愛は、神聖な愛と人性の愛との構成、ミングリングです。この愛は、人・救い主の生活、神・人の生活でした。主の生活は、神聖な属性によって満たされ、強められ、引き上げられ、豊かにされた人性の美德の事柄でした。

資格づけられて、人・救い主となる

このような生活が、主イエスを資格づけて、わたしたちの人・救い主とならせました。彼が罪人を救われたのは、そのような人に属するが神聖な生活によって、すなわち、人に属するが神聖であって、神聖であるが人に属する生活によってでした。主イエスの生活は、単に人に属するものでもなく、単に神聖なものでもありませんでした。それは人に属するが神聖なものであり、神聖であるが人に属するものでした。彼の生活はダイナミックな力であって、それによって彼はあわれな罪人を救いました。

もしわたしたちがこれを理解するなら、神聖な愛が、ただそれだけではわたしたちを救うことができなかったことを認識するでしょう。もちろん、単なる人性の愛はわたしたちを救うことはできませんでした。わたしたちを救う愛は、人性の愛と神聖な愛とから構成されたものでなければなりません。これら二つの愛のミングリングが、救う愛です。

人性の命が神聖な命で満たされていて、また人性の美德が神聖な属性によって強められ、豊かにされている生活が、わたしたちが最高の水準の道徳と呼んできたものです。ルカによる福音書においてわたしたちが見るのは、神聖な属性によって強められ、引き上げられ、豊かにされている人性の美德で満たされた生活です。そのような生活においてわたしたちは、神と人との構成、ミングリングを見ます。この生活は、主イエスがわたしたちの救い主となるための救う力と資格です。神・人としての彼の身分において、人・救い主は資格づけられて、わたしたちを救います。

わたしたちは主イエスに従う誠実なクリスチャンとして、人性の美德が神聖な属性を表現した生活をした方としての彼を知る程度にまで、彼を知る必要があります。わたしたちの人・救い主は、そのような人です。彼はこのように生活したので、彼はわたしたちを救うことができ、またわたしたちを救う資格がありました。

この方、わたしたちの人・救い主は、わたしたちの贖いのために十字架上ですべてを含む死を達成しました。それから神は、彼の生活と働きに対する神の立証と神の認可として、彼を死人の中から復活させました。この復活した神・人は、天に昇り、御座に着き、栄光と尊貴を冠として与えられ、すべてのもののかしらとされました。おお、わたしたちはみなこのすばらしいパーソンを知る必要があります！

キリストの肉体と成ることを通して、

墮落した人性を復興する

人・救い主の肉体と成ることは、おもに神を人の中へともたらすことでした。彼の肉体と成ることはまた、駄目にされた人性を復興し、回復することでもありました。神はアダムをご自身のかたちに、またご自身の姿にしたがって造りました。しかし、アダムは墮落しました。今や、墮落した人性の内側には、罪、すなわち、悪魔の邪悪な性質があります（ローマ 7:17. I ヨハネ 3:8）。それにもかかわらず、神によって造られた人性は依然として残っています。神であるキリストは肉体と成ったとき、失われ駄目にされた人性を回復しました。神は、ご自身の御子を罪の肉の形で（ローマ 8:3）、すなわち、墮落した人性の形で遣わしました。

キリストが肉体と成ったのは、単に人を救うためだけでなく、墮落した人性を回復するためでもありました。確かに、彼は人を救うために来ました。しかし、彼は人を救って、人を復興させないままにはしておきません。主は、墮落した人を復興させないで救うことはなさいません。

クリスチャンは天に行くことを望んでいます。しかし、天に行く人はみな、復興された人、造り変えられた人です。造り変えられることは、復興され、回復されることです。

二種類の人性

主イエスは地上におられたとき、墮落の状態から救われた人性を持っていました。彼は肉体と成ることを通して、回復され復興された人性を着ました。神・人がそのような引き上げられた人性の中で生活していたとき、彼の弟子たちを含む彼の周りのすべての人たちは、墮落し駄目にされた人性の中で生きていました。彼らの人性は、もともと神によって造られた人性ではありませんでした。反対に、それは駄目にされ欠陥のあるものにされた人性でした。例えば、主イエスが弟子たちに、彼がエルサレムに上って行き、死に渡され、三日目に復活させられるであろうと告げた後に、彼らはだれがより偉いのかと彼らの間で論じ合っていました。ここでわたしたちは二種類の人性を見ます。すなわち、主イエスの引き上げられ、復興され、回復された人性と、弟子たちのゆがめられ、駄目にされ、失われた人性です。

弟子たちの人性の回復

人・救い主の死と復活を通して、彼の弟子たちの墮落した人性は回復されました。使徒行伝の第1章と第2章においてわたしたちは、弟子たちがもう一種類の人性、すなわち、引き上げられ、回復された人性を持っていたことを見ます。福音書の中で彼らは、だれがより偉いのかと議論していました。しかし、使徒行伝第1章において彼らは、十日間一つ思いで、根気よく、たゆまず祈ることができました。彼らがこうすることができたのは、彼らが別の人性を持っていたからです。彼らの人性は、引き上げられ、復興され、回復されていました。彼らは救われていただけでなく、彼らの人性はその霊の再生と造り変えを通して、復興され回復されていました。

使徒行伝の最初の章でペテロやヨハネが生きたとしたような生活を、アダムはエデンの園で生

きるべきでした。しかし、アダムが神の定められた御旨において失敗したので、神は肉体と成ることを通して来て、第二の人と成りました。この第二の人は、ゆがめられ、駄目にされ、失われた人性を、引き上げ、復興し、回復しました。人・救い主の回復することを通して、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、その他の弟子たちは、彼の人性にあずかりました。何と驚くべきことでしょう！

主イエスが彼の栄光から下って来たのは、単にわたしたちを救って、わたしたちを天にもたらすためであったと、わたしたちは思うべきではありません。もしこれが彼の意図であるなら、最終的に天はゆがめられた人性を持つ人々で満たされてしまうでしょう。しかしながら、これは主の意図ではありません。主に彼の王国で自分を覚えてくださいと求めた強盗は、依然として強盗の墮落した性質を持ったまま天にもたらされると、あなたは思うでしょうか？ 確かに、天には強盗の性質を持っている人はいないでしょう。天にもたらされるあらゆる人は、復興された人です。わたしたちの人性が復興されることは、わたしたちの人・救い主となる、神の肉体と成ることによって可能になりました。人・救い主の肉体と成ることは、人を創造した神の定められた御旨の成就のためでした。(ルカによる福音書ライフスタディ、メッセージ 57)